

F-30 週休2日制が家庭生活に及ぼす影響 (5) — 生活技術

金城学院大短大生川渥子 楊山女大家政 山田久子 岐阜大教育 堀田剛吉 静岡大教育 村尾勇之 金城学院大家政 今井光映

目的 夫である勤労者の就業条件というインパクトが、家庭生活の各面(経済・生活時間・家族関係・健康)にどう現われてくるであろうか。ここでは、週休の各タイプ別の勤労時間の変化がどう受止のられ、どう順応或は適応した行動がとられているか。それは、最適の生活財を用い、最適の方法を見出し、実践に移してゆく能力を指すが、これこそが生活技術そのものである。本研究では、生活技術を家庭生活の中で衣食住の生活面に限り取扱う。これを通し週休2日制の家庭生活における生活技術のあり方や健康管理について研究し、将来の生活設計に役立てたいと考えるものである。

方法 総論の通り。本報告では、特に衣食住及び健康生活面に重点を置いて調査結果の解析を試みたものである。

結果 本来生活技術を数量化して把握することは困難である。更に各家庭の生活環境の影響も大きい。また、調査回答者の事は専業主婦であって、週休タイプの各条件を直接的に影響を受け生活技術面に直接現われにくい。しかし、今回の調査結果からは、

- 1) 衣生活面で、Aタイプの夫に個別的なレジャー活動用衣服の支出がみられる。
- 2) 食生活における改善意欲は、A・Bタイプに高いようである。
- 3) 健康状態は概してAタイプが良好である。
- 4) 1週間のうち、疲労する曜日は何れも月曜日、能率の上る曜日は火曜日である水曜日以降。タイプ別にバラツキがみられる。
- 5) 健康上からみた余暇活用態度は、A・Bタイプに向上意欲がみられる。